

# 令和6年度 柳川市立両開小学校 学校経営要綱

## 1 経営理念

子どもも 教師も いきいきと活動する学校づくり

- ・子どもが、「できた」「わかった」と成就感を味わい、楽しく学ぶ学校
- ・教師が、子どもの自主性を尊重しながら、叱咤激励して育てていく学校

## 2 学校教育目標

□ 校訓「努力」「友愛」「勤労」が本校教育の基本である。

両開校区と自分に誇りをもち、確かな学力と豊かな心を身につけ、  
たくましく生きる子どもの育成

- ◎ 「両開校区と自分に誇りをもち、たくましく生きる子ども」とは、
  - 両開の自然の恵み、学校への全面協力の人々、地域がひとつになる行事等のよさを実感し、地域から見守られている自分や自分が価値ある存在であることを知り、元気に自己実現できる子どものことである。
- ◎ 「確かな学力を身につけ、たくましく生きる子ども」とは、
  - 子ども自らが学習の主体者になり、課題解決のために既習内容を生かし、自分なりの考えの背景を持ち、学び方を工夫しながら意欲的に学習する子どものことである。
- ◎ 「豊かな心を身につけ、たくましく生きる子ども」とは、
  - 真理を求める心や自然を愛し、美しいもの崇高なものに感謝する心・生命を尊重する心や他人を思いやる心等をもち、自ら心身の健康や安全に留意できる子どものことである。

[めざす児童像]

- ◎ 進んで取り組み、知・徳・体のバランスのとれた子ども
  - (知) 意欲を持って、素直に努力を続け、ねばり強く学ぶ子ども
  - (徳) あいさつをし、きまりを守り、友だちと仲よく助け合うことができる子ども
  - (体) 基本的な生活習慣や体力を身につけ、目標を持ってチャレンジする子ども

[めざす教師像]

- ◎ 豊かな人間性、使命感、教育的愛情、人権意識をもった教師
  - 子どもと向き合い、子どものよさを見つけ、叱咤激励し可能性を伸ばす教師
  - 非認知能力・隠れたカリキュラム・子どもの将来の姿 を意識して支援・指導する教師
  - 授業力・生徒指導力・学級経営力を高めていこうと自己研鑽する教師

[めざす学校像]

- ◎ 子ども、保護者、地域の信頼に応える学校
  - 子どもがいきいきと活動できる学校
  - 学習環境が美しく整い、子どもが安心して過ごせる学校
  - 地域や社会に開かれ、保護者や地域と目標を共有し連携・協働しあう学校

### 3 教育課題と経営課題

#### (1) 教育課題

- ① 各教科等における基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力、学びに向かう主体的な態度
- ② よりよい人間関係、自尊感情の育成
- ③ 基本的な生活習慣

#### (2) 経営課題

- ① 主体的・対話的で深い学びをめざす授業改善と実践的指導力の向上
- ② 学力とともに非認知能力を高める指導と自主性を尊重した学級経営
- ③ 重点目標の達成を意識した積極的な参画

### 4 中期的な教育目標（3年間で身に付けさせたい力）

- ① 各教科等における知識・技能、思考力・判断力・表現力
- ② 自尊感情とともに仲間と助け合い、協働しあう共感的人間関係の育成
- ③ 学校・家庭・地域と連携した規範意識、基本的な生活習慣

### 5 柳南中学校区（保育園・小学校・中学校）の「みんなのスタンダード」

- ① 元気に あいさつ・返事をする子ども
- ② 進んで そうじ・手伝いをする子ども

### 6 重点目標

#### ○ 進んで 思いや考えを伝え合う子ども

##### (1) 重点目標の意味

昨年度、重点目標「自分も友だちも大切に作る」子どもの育成に向け、教育活動全体において、全職員で子どもの頑張りや良いところを声かけやシェアカードで伝えたり、2部会「学び部」「たいせつ部」で、相手を意識した聞き方・話し方や言葉のキャッチボール、挨拶、掃除等と呼びかけたりして、重点目標達成に向けて取り組んできた。そのため、自分や友だちのよさに気づいたり認め合ったりすること、相手を思いやりながら自分の考えを伝えたり聞いたりすること、困っている友だちを助けたりすること、後の人のことを考えた行動をとったりすることは、少しずつできるようになっている。

しかしながら、下記のような主体的な態度、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力に課題が残った。

- ・自主性や主体性
- ・自分から、友だちの意見をつないで発言することや関係づけて話したり説明したりすること
- ・交流を通して内容を広げたり深めたりすること

そこで、育んできた相互理解や信頼関係、学習規律等を素地として、「進んで思いや考えを伝え合う子ども」を目指していく。

「進んで」は主体的な姿を現し、「思いや考えを伝え合う子ども」とは、自分の気持ちや願い、感想、意見、主張等を友だちや周りの人に伝え、それを聞いた子どもがその意見をつないで発言し、さらにそれに対してまた意見を返しながらやりとりすることができる子どもである。そして、そのやりとりを通して、始めの思いや考えが、付加・修正・強化され、広がったり深まったりする。つまり、課題に対する自分の思いや考えを進んで発信し、友だちや周りの人と関わり、協働しながら学ぶ姿である。

この重点目標を具現化することは、教育課題である「思考力・判断力・表現力、学びに向かう主体的な態度の育成」とともに、経営課題である「主体的・対話的で深い学びをめざす授業改善と実践的指導力の向上」につながる。